

Back Number

本論文は

世界経済評論 2020年11/12月号

(2020年11月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

平成の経済政策は どう決められたか

：アベノミクスの源流をさぐる

法政大学経済学部教授 小黒 一正



【編著者】

土居丈朗（どい たけろう）

慶應義塾大学経済学部教授

【発行】中央公論新社（中公選書），2020年5月

【判型】四六判，360ページ

【定価】本体1800円＋税

新型コロナウイルスの感染拡大は、日本を含む世界の社会活動や経済活動に大きな影響を及ぼしている。この問題がいつ終息するかは現時点では分からないが、数年経てば、いずれ終息しよう。人口減少・少子高齢化が進むなかで、そのとき、日本はコロナ以前に抱えていた課題に再び直面する。その課題とは、アベノミクスの功罪の検証や、財政健全化とデフレ脱却だ。

本書は、経済財政諮問会議を含む省庁再編で内閣機能が強化され、官邸主導の政策運営が始まった2000年代以降、経済政策はどう決められたのかという問題意識に基づき、政策立案に

関与した5人の重鎮の経済学者との対談を通じて、その輪郭や全体像を浮き彫りにしたものだ。

財政健全化とデフレ脱却は基本的にトレードオフの関係にあるが、その主な政策手段は財政政策と金融政策である。本書では、小泉内閣から第二次安倍内閣までの政策形成の議論において、税制改正の附則で消費増税の道筋をつけた麻生内閣や、社会保障・税一体改革で二段階増税案をまとめた野田内閣、それらに関与した与謝野馨議員の功績を評価しながら、経済政策の軸足が、財政の構造改革から、デフレ脱却の象徴である物価2%目標（異次元緩和）に移っていった流れを精緻に考察している。

もっとも、周知のとおり、異次元緩和でも物価2%目標は達成できず、財政赤字も恒常化するなか、財政健全化とデフレ脱却という課題は、2020年以降の宿題として残されたままだ。むしろ、大規模な金融緩和で日銀が大量に国債を購入し続けるなか、財政規律がさらに緩む懸念が強まっている。

令和の経済政策はどのような軌跡を辿るのか。現時点での予測は難しいが、財政健全化とデフレ脱却を中心とする政策形成の議論が平成の政策の延長にあることは間違いない。「財政は経国の枢機にして、国務の運営一として之に頼らざるはなく、一国隆替の跡は正に財政の沿革によりて之を窺ふを得べし」。高橋是清は「明治大正財政史・序文」において、こう述べている。歴史から学ぶことは多いが、財政については殊更であり、政治や経済の変遷、それらを受けた財政の変遷を、大きな時代の歴史の流れとして、捉えていく必要がある。

団塊の世代が75歳以上となる2025年から医療・介護費の膨張圧力が増すため、財政・社会保障改革が喫緊の課題であることは変わらない。コロナ禍で真の不確実性に直面している今こそ、頭の整理を行い、将来の方向性を模索するためにも、本書を一読する価値がある。

（おぐろ かずまさ）